

## 【天国を望むあなたへ】

聖書本文: マタイの福音書25章31-46節/暗唱聖句: マタイの福音書7章21節

説教: 鄭南哲牧師



愛する信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安がありましたか。今日は特に敬老の日感謝礼拝を通して捧げます。まずは、我々の教会のマリヤ会のお母さんの方々を我らの主イエスキリストの御名によって祝福し、今年も健康であるように切にお祈り申し上げます。

## ＜最近の日本の高齢者の実態＞

最近、日本の社会はとってもし早いスピードで高齢化(こうれいか)にされています。しかし、日本の高齢者の方々について明るくないニュースが多いですね。

2008年9月敬老(けいろう)の日を迎えて発表された日本総務相(しょうむしょう)の資料によると、現在日本に生存している65歳以上の高齢者の人口は2,819万人で去年と比べて76万人増加されたことが分かりました。この中で70歳以上の高齢者は去年より57万人増えた2,017万人で史上最初に2千万人を突破しました。このような数値は日本全体人口の約22.1%を占(し)める歴代最高値(れきだいさいこうち)を記録しました。しかし、高齢化によって年を寄った親がふえたのにもかかわらず、社会と子供たちはその親を敬ってちゃんと面倒をみるどころか、むしろ不道徳的な問題が急増することをみると本当にこの世の終わりが近づいてきているような気がします。

高齢の親をその子供が虐待(ぎゃくたい)する犯罪率が日本で最初に発表され始めましたが、2007年日本厚生労働省(こうせいろうどうしょう)によると、2006年日本で発生された高齢者虐待事件は家庭で1万2575件、施設で53件、合計(ごうけい)1万2628件でした。それともその以来ますます高齢の親を虐待する事件が急増されています。その統計によりますと、もっと残念なのは家庭で発生された高齢者虐待事件の大体の被害者は女性、つまりお母さんたちが77%を占(し)めています。加害者(かがいしゃ)たちは見知らぬ人ではなく、その母たちが一生涯育てたり、仕えて来てた息子や旦那(だんな)たちが半分以上を占め、特に、息子が37%として一番加害(かがい)数値が高かったし、その次は主人(14%)と娘(14%)の順番でした。虐待の種類(しゅるい)も‘力がなく年を老(お)いた親に犯す身体的虐待’が64%で一番高かったし、その次は‘心理的虐待’(36%)、‘介護放置(かいごほうち)’(29%)、‘財産強奪(ざいさんごうだつ)などの経済的虐待’(27%)があったと調査(ちょうさ)されました。

これらの問題のため日本政府は何年前から‘高齢者虐待防止法(こうれいしゃぎゃくたいぼうしほう)’を実施(じっし)し、年を老いた親たちを守るための装置(そうち)を法的に作ったのも残念なことなのに、それにもかかわらず、人間としての倫理を越えた犯罪が多様(たよう)に起こされているのがいまの実情です。年を老いた親との問題以外にも、最近はお小遣いをくれないという理由で中年の親を暴行(ぼうこう)したり、おばあちゃんがしかるということで孫(まご)がおばあさんを殺害したり、病気の父をなぐったり、財産をねらって親を殺害したり、病気になった親を捨てるなど、口に出せるのも恐ろしい犯罪が犯されています。

## ＜神の家族、信仰の親＞

愛する信仰の家族のみなさん！マルコの福音書3章31-35節を読んで見ましょう。人々は主の前に来て、“ご覧なさい。あなたのおかあさんと兄弟たちが、外であなたをたずねています。”と伝えました。その時、イエス様は集っていたすべての人々に自分の回りにすわっている人たちを見回して言われました。“「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。」”と言いながら、“神のみこころを行なう人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。(35節)”

つまり、イエス様は肉の血がつながっている兄弟姉妹だけが親族ではなく、霊的に、信仰の面においてだれでも神を信じ、神の御心通りに従う人々がみんなキリストにある兄弟、姉妹、親であるということでした。信仰の家族はあの御国、天国で共にとこしえまで一緒にする大切な存在たちです。なので、わたくしがいつも愛する信仰の家族のみなさん、兄弟姉妹のみなさん！と表現するのは聖書的であり、イエスキリストが教えて下さった通りに従うことです。ですから、もう一つ、今日敬老の日感謝礼拝を捧げています。うちの教会のマリヤ会の方々は単なる姉妹じゃなく、信仰の母親のような存在として、もっと心から愛し、敬い、礼儀正しく仕えていかなければならない方々であることを忘れないで下さい。

## ＜裁き主として再び来られる主イエスキリスト＞

今日の本文は、イエス様からの最後の例えのお話である‘羊とやぎのたとえ話’通してイエスキリスト御自身が再び来られる世の終わりの時と神様がおられる永遠の命を得て、御国に入れるためにどうするべきなのかについて大事な内容を教えて下さっています。

まず、マタイの福音書25章31節を何方が読んでいただけるでしょうか。このたとえ話の始まりは人の子、つまり、イエスキリストがその栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来られる姿から始まっています。つまり、イエスキリストの再臨される日を描いています。ここで栄光の位(くらい)というのは王様が座れる席で、すべての王であるイエス様が王権を持って行使(こう)

し)されるために王の座に着くという意味です。そして、イエスキリストが再び来られ、この世をさばかれる時があることを教えて下さっています。32節に“すべての国々の民が裁きの対象だと言われています。国、人種、年、性別を越えてあらゆる人類が逃れることも、避けることもなく、みんなキリストの御前に立つ時が来ると教えられています。一人も残らず神様の審判台に上がるということです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！もちろん、いつイエスキリストが再び来られるかはだれも知りません。この世の終わりはだれも知りません。ただ神様のみがご存じです。しかし、確かな事実は以前はご自分を無にして、神のあり方をすて人間と同じようにまで低くされた謙遜な姿でこの世に来られたイエスキリストでしたが、再び来られる時には裁き主として威厳と栄光の中で来られます。聖書にはその時がこの世の終わりの時であると教えて下さっています。そして神様のさばきはかならずみんなに行なわれます。いつか我々は主の御前に立つ時がかならず来ます。だれも逃れませんが。その時、主は私たちに必ず尋ねます。神様が私たちに預けてくださったすべてのことをどのように用いたのか。救われる準備は備えてきたのか。生きている間救いの信仰をしっかりと握って来たのか。みなさんは今いかがですか。その準備はもう整えているのですか。

今日の本文の御言葉でイエス様のたとえ話を通して私たちはもう一度神の御国に入ろうとする人はどうすればいいのかよく教えて下さっている内容なので、自分を顧み、点検して見る時間となりますように切にお祈り申し上げます。

### <今日の本文の内容>

今日の本文に戻って、この世をさばくために栄光の中、イエス様が再臨される時、主はすべての国々の民を集め、羊飼いが羊とヤギとを分けるように彼らをより分けるとおっしゃいました。羊飼いが家畜をおりにいれる時羊とやぎとをわけるように、神様のさばきの時にも天国にはいれる者と地獄に入る者とを分けるということでした。

イエス様がどうして羊とやぎを例えたのか疑問に思われるかも知れませんが、当時イスラエルの農耕(のうこう)と牧畜(ぼくちく)の社会だったので当時人々にはとつても分かりやすい例えだったと思われまます。そしてこれと似た内容が旧約聖書の中エゼキエル書34章17節-19節にも出ているので、イエス様のお話を聞いていた人々は羊とやぎを分けておりに入れたように天国に入る者と地獄に入る者を分ける内容であることをよく理解したと思ひます。

**私たちはみんなその時、天国に入らなければなりません。そして、はたしてどんな基準でイエス様の再臨の時、羊とやぎとを分けるのかを知ることはとても大切です。**それを知れば、わたしたちもヤギの側のように地獄ではなく、羊のように天国に入る事がより確実にできるのではないのでしょうか。それがわかると、我々のこれからの残されている人生をどう過ごすべきなのかがより見えて来ると信じます。

今日の本文35-36節をどなたかゆっくり読んでくれますか。主のこのお言葉に対して右にいる羊たちは“**私たちがいつそんなことをしたのですか**”とたずねます。すると、40節で、“**すると王は彼らに答えて言ひます。まことにあなたがたに告げます。あなたがたが、これらの私の兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。**”答えられました。みなさん！ここで最も小さいものはだれを言うのでしょうか。本文には彼らは飢えている者、渴いた者、旅人、病気にかった人、そして牢に入れられた者などだと書かれています。つまり信仰が弱く(私の兄弟たちの中なので)、いろいろな面において助けを必要としているすべての人たちを意味します。

ですから、イエス様と同一されているこの‘**信仰を始まったばかりの人々、信仰の弱い者、信仰の生活をする中でいろんな苦しみや試練に抱えている者、いろいろな面において助けが必要な者、もっとも小さい者たち**’はいつも我々の周りにいます。今日、右に立っている人々は神の愛を持ってこれらの人々に犠牲を払って仕えた人生を送ったので、裁きの時に神の国に入れたと言っています。

ところが、左側のやぎたちの方に立った人々には41節“**それから、王はまた、その左にいる者たちに言ひます。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火にはいれ。』**”と言われました。そしてイエス様はそこに入るべき理由を42-43節にかけて教えて下さっています。

“**おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、43 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。**”

その時、地獄に入ることに決められた者たちが44節で訴えます。“**そのとき、彼らも答えて言ひます。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』**”

まず、注目すべきところは、兄弟たちの中助けが必要な人に対してまるで、その人が自分であるとイエス様は尾者っています。

それに初代教会のテトリアンとクレメントという有名な神学者たちはこの内容に対して“**あなた方が助けを必要としている兄弟姉妹を見た時、それは主を見ていることだ**”と言ひました。山羊側に立っていた人々は苦しんでいた、助けが必要とされた人々を無視し、無関心であったのはイエス様ご自分にしたことと同じことであると指摘してくださいました。

そして、ここで世話をするという言葉はギリシャ語で“**ディアコネオ**”と言ひて“**奉仕する、仕える**”という意味です。ですからここで彼らが地獄に落ちいた理由は信仰も弱く、助けが必要な者たちに助け、つかえなかったからであることが分かります。これがイエスキリストの御前に立てられた時、主が人々を裁かれる物差しでした。

救われ天国に入るためには兄弟、姉妹たちの中小さい人々に主のみ名によって助け、仕える愛の奉仕する行為がどれほど大切であることをよく今日の本文でイエス様は教えて下さいました。この世でもっとも小さい者に仕えることによって天国での

永遠の命への生活になるか、それとも地獄落ちて永遠の罰を受けるかが決められるんですね。

### <愛の仕えと奉仕は救われた信仰を持っている者たちに伴われる当然な行いです！>

ところで、みなさん！ただそのぐらいで理解して終わってしまうと、どこかおかしいと思いませんか。今日の本文はまるで、この世での用紙の生活によって天国ゆきが決まるように理解されているようですね。私たちは今までいくら愛の犠牲や仕えが素晴らしいことだと認めても、人間の努力や良い行い行為などの条件が決して天国に入れるような基準とか、決定権にはなれないという信仰をずっと学んで持って来ているのに今日の本文はいったいどういう意味なんでしょうか。

実はみなさん、今日の本文は人間の善行(ぜんこう)自体が天国に入れる条件だと教えていることではありません。

みなさんがよくご存知の通りエペソ人への手紙2章8節—9節を見ると、“あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。:9 行ないによるものではありません。だれも誇るものがないためです。”だと明確に書いてあるでしょう。ですから人間の行いその自体では天国に入れるわけではないと聖書ははっきりと教えて下さっています。

愛するみなさん！みなさんは今あの方が本当に救われる信仰を持っているのか、あの方が本当に救われた者であるか、どうかどう分かることができると思いますか。もちろん私たちが自分勝手に他の人が持っている信仰について判断してはいけなし、気をつけなければなりません。しかし、分かりやすく単純に分かれる方法があります。その人の行いを見ると真の信仰を持っているのか、救われた人であるかが分かります。ですから、今日の御言葉で分かれた理由は単なる愛の奉仕、良い行いだけじゃありません。その人の行いを通してその人が真の信仰のゆえであるか、どうか神様は御存知だったからなのです。

今日の御言葉の本文で、天国に入れた愛の仕え、犠牲を払った奉仕というのは神の御国に入れるための条件より、信仰によって神様の御国にすでに入らせていただいた民として伴われるべきふさわしい当然な行いであることです。

まことにイエスキリストを信じ、受け入れすでに救いを得た神の民たちはその愛の行いと仕えを通してその存在の特徴が現れます。つまり、救われるために条件として良い行いをするのではなく、すでにイエスキリストを信じ、受け入れ、救われた者ですから、その恵みと愛に感謝しつつ、他の人々にその愛を分け与えるようになるのは当たり前ではないでしょうか。もし、その愛の使えと行いが見えないなら、確かにその人に真のキリストの永遠の命が植え付けられているかどうか点検しなければなりません。

イエス様はこの天についてでもすでにマタイの福音書7章17節—21節でこう言われました。

“同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。19 良い実を結ばない木は、みな切り離されて、火に投げ込まれます。20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。21 わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです”

そして、ヤコブの手紙2章14-17節には“私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。17 それと同じように、信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけでは死んだものです。”

ジョンカルベンという偉大な神学者は彼の本キリスト教綱要(こうよう)にて次のように適切な理解をさせてくれます。

“キリストはすべての人々に自分たちの行為に従って報いて下さる。なぜならば人たちは自分の行為によってまことの信者であるか不信者であるかが証明されるからである。”と。これらのことを通してこの世で愛の奉仕と仕える生活はイエスキリストを信じているクリスチャンとして当然あわらされるべき生活の実であることを覚えなければなりません。

ですから、今日の本文を通して得られる結論といえば、天国に入り、永遠の命を頂けるといえるのは信仰を持つしだいですが、自分が持っているその信仰が確かな信仰であるか偽りの信仰であるかはその信仰にかならずふさわしく愛の行いをもとまっているのかを通して確信できるということなのです。

主が裁き主として再び来られ、さばきの座に着かれる日天国に入れる者たちはもっとも小さい者たち、信仰の弱い人々、助けが必要な人々のためにイエスキリストが自分を救うためになされたように主の愛を持って犠牲を払って助け、仕える行いが伴う者たちであるということと共に覚えて生きましょう。

### <愛の奉仕と仕える行為だけではなく、その人の心と姿勢が大切です！>

今日の本文には、やぎも遠くから見ると、羊と似ているもので、山羊も確かに羊の似てる真似もしていたと思われま

す。しかしいさ、似ている形、あるいは同じ形式かで持つ事だけによっては天国に入れません。イエスは言われました。“わたしに向って、「主よ、主よ」と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみ心を行なう者がはいるのです。(マタイの福音書7章21節)”

神様は今も我々のうわべよりも我らの心の中心を見つめておられ、知っておられるお方です。みなさんはイエスキリストを救い主として確実に信じていますか。みなさんに恵まれた、救われた確かな信仰を持っていれば、かならず神様を愛し、その

神の愛と恵みを持って隣り人たちをも、特に助けが必要な人々、信仰がまだ弱い人々のために仕えていくことができるようになります。自己中心的だった人生、自分のことばかり考えた生き方から他人中心、もっと自分もイエスキリストがなされたように人々を愛し、弱い人々、助けが必要な人々に哀れむ心を持って助け、仕えることができるようになりますと信じます。

**愛するみなさん！そしてもう自分は十分やっていると思われる方は次のことに気をつけましょう。**

イエス様が望んでおられる真の奉仕というのはただ奉仕を、思いやりのある助けをどれぐらいするのかではないことです。

つまり、奉仕の行為それだけ見ておられるのではなく、奉仕する人の心の中心、動機、態度であることです。今日の本文44節では、左のやぎの側に立てられ、呪われた人たちの自己弁護を通してこう感じられませんか。

彼らは自分たちの考えではもう十分仕えて来たと言っているんですね。しかし、45節でイエス様はもっとも小さい者にしなかったのはわたしにしたことではないとおっしゃいました。これは何を意味していますか。彼らの奉仕は主が願われた奉仕ではなかったということではないでしょうか。彼らはもっとも小さい者たち、信仰や助けが必要な人たちにいつでもだれでもではなく、自分勝手に自分が助けたい人や愛したい人など自分勝手に決めてやったかも知れません。自分たちがやりたい時だけやったかも知れません。あるいは、助けが必要な相手の立ちに立てその人のために、あるいは神様の御心であり、御言葉にあるから従って助けず、自己満足のため、他の人たちから偉い人や信仰者だと認められるため、他の理由や目的でやったかも知れません。

これを通して一つ教えられるのは、ただ奉仕をどれぐらいしたのかが神様の関心ではなく、その仕え、奉仕する人の態度、心の中心をごらんになりそれを大切にされる方であることを私たちはいつも覚えなければなりません。

ですから、真の奉仕というのは自分の利益や報償のためではなく、主に仕えるように行なうただ愛と信仰の奉仕でなければいくらたくさん奉仕をしたとしても主イエスキリストに何の関係がないことであることをもう一度心に刻んでおきましょう。

### <まとめ>

敬老の感謝の日礼拝として今日さげています。何よりも教会の中で兄弟姉妹たちの中で一番力、助け、関心と愛が必要な対象はだれだと思いますか。もちろん、小さな命、子供たちも必要です。しかし、もっと必要とされている方がマリヤ会の方々ではありませんか。私は仕える、助けることができる年配の方々うちの教会に共にいらっしゃるのが祝福であり、感謝だと信じます。その方々に仕えることがつまり、イエスキリストに仕えることにもなり、仕える者たちがそれによってさらに祝福されますから。

まず、愛の奉仕と仕えを教会のお父さん、お母さんのような方々にまず表すべきです。そして、教会の小さな命たちに、そして教会の家族に惜しみなく仕え、力と助けになる愛の信仰の家族となりますように切にお祈り申し上げます。

そして、教会の家族だけではなく、まだ神の愛、救い、恵みを知らず回りに孤独で寂しくて、助けを、愛を求めている助けが必要な多くの人々にそれを分かち合い、伝えることもとっても大切な愛の奉仕ではありませんか。

イエス様はもっとも小さい者の一人にあげた水一杯でも決して忘れないと約束されました(マタイの福音書10:42)。

10月の1週目、今回のクリスチャンプレイズチャーチの9周年設立感謝礼拝の時にVIP招待集会で行なう予定です。ぜひ大切な一人のために祈りつつ、時にはその人のために犠牲を払う必要があっても、キリストに導いて、共に恵まれ、祝福される時となるように共に愛の仕えを持って歩み、行なうみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によってお祈ります。

アーメン！